

◇ めざす生徒の姿（スローガン）

◎地域との繋がりによる達成感・喜びの実感

～地域のもつ良さ・素晴らしさと共に、抱える課題を認識し、その克服に向けた方策を考えることを通して、**地域の一員としての自覚を高める**～

今年度、コロナ禍も4年目となり、地域行事の中止が多い中、時期や開催方法など柔軟に対応され、北中の生徒もボランティアや『中学生と語る会』等に参加させて頂いた。その中では、自分の地区以外の行事に参加し、地域の方と自然な交流をする姿が見られた。さらに、地域の方から行事の中での姿を認めていただき、「参加できてよかった。」「知らないことが学べて良かった。」といった思いをもって終えることができた。こうした学校以外での体験の価値を大切にしていきたい。（地域貢献活動）

一方、伝統となってきた『プロジェクトf』やこれから充実を図りたい『生徒会新聞』の発行など、学校から地域への発信も大切に、地域に対する目をもち続けられるようにしたい。（学校発信活動）

地域と学校の双方向の活動によって、地域との繋がりに喜びや達成感を実感できる生徒を育てていくことをめざす。

また、特に今年度から核としたいことは『環境学習』である。『スーパーエコスクール』としての北中学校の立ち位置の自覚を高め、今年度、生徒会が中心となって取り組んだ『北中 SDGs』を拡大・深化していくために、『総合的な学習の時間』のテーマを『地域のもの・人・こと』からしようから焦点化した『環境』とした。来年度から取り組むテーマであるため、取り組みながら軌道修正していくことも予想できるが、各学年のテーマに沿って学びを深め、そのまとめの発表、提言等、出口を明らかにして取り組んでいきたいと考えている。

◇ 北中版 コミュニティ・スクールの構えと組織

①【基本的な構え】

◎**負担感を感じるような組織、運営にしない。学校、家庭、地域のどこも過重負担とならないことを第一とする。**そのために、一方通行の取組にすることなく、常に双方向になっていることを確認しながら進める。また、生徒に軸足を置き、よりよい成長に向けて、様々な立場からの見方・考え方を提案していく。

その際、まずは、新たな活動を生み出していくことより、今までの活動を見直し、工夫改善を加えていくことに重点を置く。

○運営協議会組織の一員として活動して良かった、有意義な取組を行うことができた、という思いがもてることを目指す。

◇新型コロナウイルス感染者の動向を注視し、無理なく行っていくことを前提とし、実施に当たっても、中止・延長・縮小等、柔軟に対応する。また、実施する際には、感染症対策を十分に講じる。

②【組織】

| | | | |
|---------|---|------------|---------|
| 学校運営協議会 | 企画・評価を兼ねる。 | 5地区×2名＝10名 | 学識経験者2名 |
| 委員 | ☆会長（1名） ☆副会長（2名） ※副会長の決定についてはその都度協議を行う。 | | 計12名 |
| | 【アドバイザー：瑞浪市教育委員会 学校教育課1名、社会教育課1名 | | 計2名】 |
| | 【事務局：学校関係者（校長・教頭・主幹・教務） | | 計4名】 |
| 会議 | 年間2回（5月、2月）定期開催【学校経営方針の共通理解・承認、活動計画の確認、評価】 | | |
| 運営協議会 | 2月の学校運営協議会は 拡大会議 として実施し、 校区4小学校から学校長を招聘 する。 | | |
| 拡大会議 | その他、必要に応じて会長の招集により開催する。 | | |

③【基本となる活動の柱】

(1) 地域貢献活動

- ・地域行事・ボランティアへの参加、価値付け

(2) 学校発信活動

- ・メッセージを込めたプロジェクトfの贈呈
- ・地域の想いを汲んだ生徒会新聞の発行
- ・学校運営協議会内での生徒会による発表

(3) 環境学習

- ・地域から学び、地域へ還元する

総合的な学習の時間『環境学習』の各学年テーマ(案)

【1年】

- 地域の自然環境
森林・河川、ゴミ、自然破壊、土地利用、

【2年】

- 身近な環境（生活環境）・・・学校・家庭
リサイクル、エコ、SDGs、環境保全の取組、

【3年】

- 瑞浪市内の環境
抱える問題の調査、提言へ

※今年度からスタートするテーマであるため、各学年の追究内容の重複はあり得る。